

第16回松本市西部地域公共交通協議会次第

日 時 平成23年2月3日(木)
午後1時から
場 所 議員協議会室

1 開 会

2 あいさつ

3 会議事項

- | | | |
|----------------------------------|----|---|
| (1) 第15回松本市西部地域公共交通協議会の開催結果について | 資料 | 1 |
| (2) 西部地域コミュニティバスの利用状況及び評価・検証について | 資料 | 2 |
| (3) 国庫事業における事後評価について | 資料 | 3 |
| (4) 意見(パブリックコメント)の募集結果について | 資料 | 4 |
| (5) 西部地域公共交通総合連携計画変更(案)について | 資料 | 5 |
| (6) 第6回住民意見交換会の実施について | 資料 | 6 |
| (7) その他 | | |

4 その他

5 閉 会

第15回松本市西部地域公共交通協議会の開催結果について

1 日時

平成22年12月22日(月)

10時30分～11時40分

2 場所

松本市役所東庁舎3階 議員協議会室

3 会議事項

(1) 第14回協議会の開催結果について(原案どおり承認)

(2) 西部地域コミュニティバスの利用状況について(原案どおり承認)

(3) 第5回住民意見交換会の開催結果について(原案どおり承認)

(4) 西部地域公共交通総合連携計画変更(案)について(原案どおり承認)

(5) その他

ア JR大系線ダイヤ改正に伴う対応について

イ 事後評価の対応と次回協議会の開催について

4 会議で出された主な意見等

項目	意見等
西部地域公共交通総合連携計画変更(案)について	<p>○松本市では通勤にマイカーを使わない取組みを行っており、この取組みを広げられないか。企業、会社単位でマイカーをやめるとしていけばコミュニティバスの利用も上がると思われる。</p> <p>⇒コミュニティバスは2つの移動目的、通勤・通学、通院・買物に対応することを基本に設計している。エコ通勤については、事業者へ理解いただきながら全市的に依頼していく。</p> <p>○稲核線、乗鞍線等の改善について、安曇地区は集落が点在しており、人口も少ない。運行事業者も路線廃止の方向が自然の流れで生活路線としても厳しいが、そうならないよう、運行事業者への支援をお願いしたい。</p> <p>⇒稲核線、乗鞍線については、中心市街地への移動手段。その支援について、地域特性を考慮し検討していく。奈川市営バスが現在、民間事業者との運賃の違いがあり、安曇地区では利用できないので、乗車できるよう調整していく。</p> <p>○波田地区全体的には、西部地区公共交通協議会の情報の広報が進んでいない。住民の声を聞くことも必要。協議会の取組み内容について、周知してほしい。</p> <p>⇒住民・交通事業者・行政の果たすべき役割を変更(案)P56に公共交通の維持に関する標準的な考え方を新たに示している。行政の広報等周知活動は当然行っていくが、住民の皆さんの要望、利用促進に関する啓発・サービス向上の取組みについ</p>

西部地域コミュニティバスの利用状況及び評価・検証について

1 趣旨

8月にルート及びダイヤ等を見直したうえで実証運行を行っている西部地域コミュニティバスについて、本格運行に向けて評価・検証を行ったものです。

2 評価・検証の方法

(1) 対象とした実証運行の期間

平成22年8月2日～12月28日

(2) 評価・検証を行う上で実施した調査

ア 乗降調査

(ア) 実施期間

8月2日～12月28日 調査期間に運行する全便で実施。

(イ) 実施内容

OD調査（乗車バス停及び降車バス停）を実施。

イ 留め置き調査

(ア) 実施期間

10月1日～11月30日

(イ) 実施内容

利用者にアンケートを配布し、次回乗車時に回収。

ウ 聞き取り調査

(ア) 実施期間

11月15日～11月30日

(イ) 実施内容

全便に調査員が乗車し、直接利用者からアンケート項目の聞き取りを実施

エ 住民意見交換会

(ア) 実施期間

6月11日～18日、11月11日～26日

(イ) 実施内容

コミュニティバスを運行している全9地区において実施。

オ その他

空港・朝日線については、5月24日～28日の5日間、各バス停における乗降調査を実施

3 評価・検証の結果

(1) 利用状況

別紙のとおり。

(2) 各線の状況

【新村・平田線B線】

ア 利用の特徴（中間報告書P30～P42）

項目	内容
便別	全24便のうち、4便が目標の2人/便を達成。 便による利用人数の差が比較的小さく、どの便においても一定数の利用が見られる。朝、夕と回数券の利用が多い。
バス停別	平田駅の利用が群を抜いて多い。和田地区、神林地区の一部のバス停では利用が少ない。
曜日別の傾向	土曜日に利用が落ち込み、金曜日に利用が伸びる傾向。
OD（乗車乗降）	二子団地⇄平田駅、平田駅⇒北新・松本大学前が多い。（22.7%）
利用者属性	芳川、笹賀、神林地区の利用が多い。新村、和田地区の利用はあまりない。10代から70代以上の幅広い世代で利用されている。学生や勤め人利用も多い。
利用目的	通勤が最も多い（36.4%）次いで通学（25%）
利用形態	鉄道の乗り換えが多い（31.6%）。また、その内79.1%は平田駅を利用。 コミュニティバスの乗り継ぎ割合は8.8%
満足度	運行経路に対する満足度は高いが、ダイヤに関してやや不満が増加。総合的には60.5%が満足と回答

イ 課題（中間報告書P43）

項目	内容	備考
計画上の課題	目標値が達成できていない	「1便当たり2人の乗車」という運行目標が達成できていない
設計上の課題	設計通り、様々な住民に利用されているが、利用が伸び悩んでおり、1便当たりの利用者数が少ない	
運行上の課題	どの便も利用されているが利用が低調 極端に利用が少ないバス停が存在する	和田地区内のバス停などほとんど利用が見られないバス停が多数存在する
その他の課題	新村、和田地区における利用が少ない	

ウ 改善方針（中間報告書P44）

項目	方針	備考
運行ルート	利用の少ない地域におけるルートの見直しを検討する	
バス停	一部廃止を検討する	利用の少ないバス停については、廃止を検討する
運行ダイヤ	1便当たりの利用者数を増加させるため、土曜日の運休や利用の少ない便の廃止を検討する 鉄道との接続時間は、十分余裕を持って乗り換えができる時間を設定する	B線はコミュニティバスの中でもっとも1便当たりの利用者数が少ない路線であるため、土曜日の運行廃止、運行便数の削減など効率化を図る
その他	松本大学等における利用促進を行う 地域内におけるさらなる利用促進を検討する	松本大学はさらに利用の増加が見込めることから、利用促進策を徹底する 松本中心市街地への通勤、通学便が充実しているが、利用が伸び悩んでおり、地域が主体的に利用促進策に取り組む必要がある

【新村・村井線D線】

ア 利用の特徴（中間報告書P58～P71）

項目	内容
便別	全19便のうち、10便が目標の2人/便を達成。 1便あたり1人を割り込む便は夕方の4便しかない。
バス停別	村井駅が群を抜いて多く、次いでアイシティ21、菅野簡易郵便局、 新村駅となっている。 和田地区のバス停はほとんど利用されていない。
曜日別の傾向	土曜日と木曜日にやや利用が落ち込むが、曜日による変化が少ない。
OD（乗車乗降）	村井駅⇒今井小学校、村井駅⇄やまびこドームが多い。
利用者属性	笹賀地区、今井地区の利用が多い。また、塩尻市、山形村の利用も 存在する。 利用者の77.2%が女性で、年代別には10代と50代の利用が 多い。また、中高生、勤め人、主婦など幅広い層での利用が見られ る。
利用目的	通勤、通学、通院、買物と満遍なく利用されている。
利用形態	鉄道への乗り換えは16.7%で、乗換に利用されている駅はJR 村井駅がほとんどで上高地線新村駅の利用はほとんど見られない。 コミュニティバスの乗り継ぎ割合は6%。
満足度	4線の中で満足度は最も高く、総合的には86.8%が満足と回答。

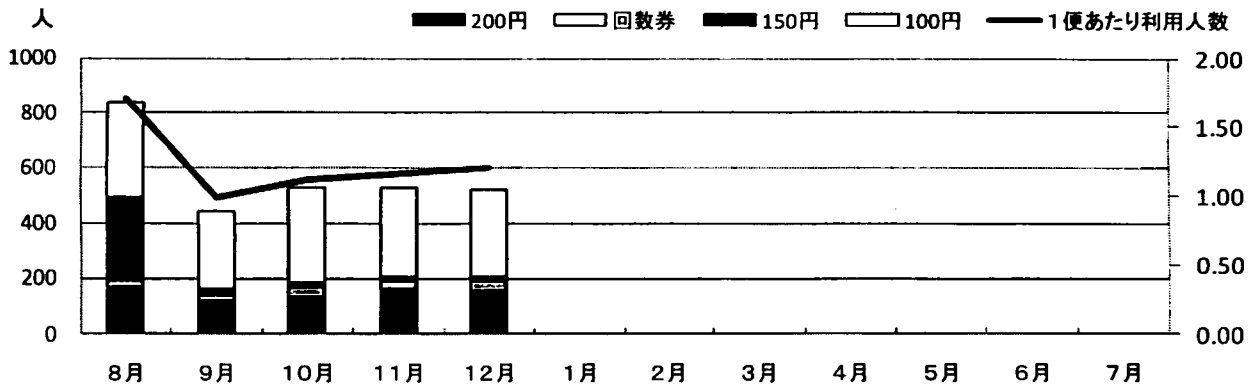
イ 課題（中間報告書P72）

項目	内容	備考
計画上の課題	最終目標である収支率30%を目 指し、さらなる利用促進が必要	1便あたり2人を維持することが重要
設計上の課題	設計通り、通勤、通学、通院、買 物など幅広い層に利用されてい るが、夕方の便の利用が低迷す るなど課題も見られる	連携計画の見直しに伴い波田地区等が西部地域に編入さ れる。それに合わせた路線の見直しが必要
運行上の課題	利用が少ない便、ほとんど利用さ れていないバス停が存在する	和田地区内のバス停などほとんど利用が見られないバス 停が多数存在する
その他の課題	和田地区における利用がない 今村の一部に交通空白地帯が 見られる	

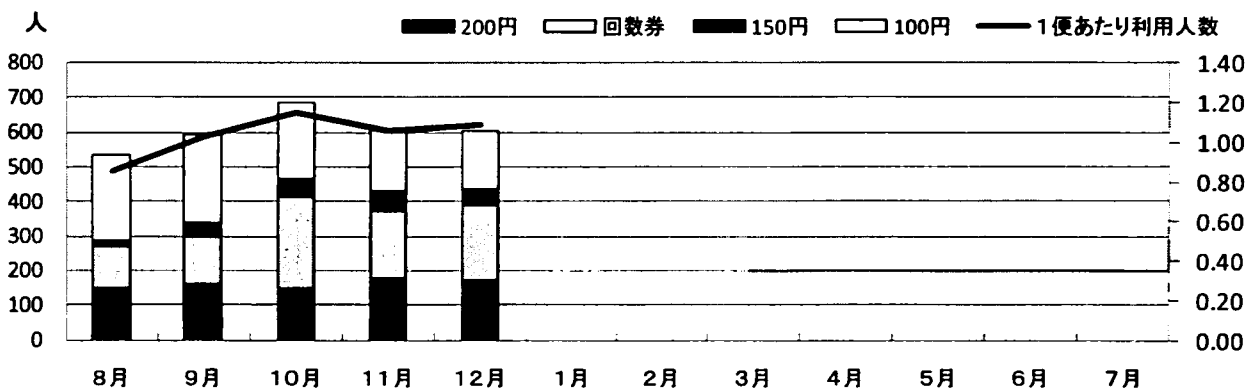
ウ 改善方針（中間報告書P73）

項目	方針	備考
運行ルート	連携計画の見直しに伴う波田地区の編 入などに対応する路線を再設計する	ただし、現時点で利用者が増えていることや定着してい ることから、これらの利用者に大きな影響を与えないよう な改善を行う
バス停	一部廃止を検討する	利用の少ないバス停については、廃止を検討する
運行ダイヤ	ルートの変更とあわせてダイヤの見直し を行う 鉄道との接続時間は、十分余裕を持って 乗り換えができる時間を設定する	ただし、現時点で利用者が増えていることや定着してい ることから、これらの利用者に大きな影響を与えないよう な改善を行う
その他	地域内におけるさらなる利用促進を行う 朝日村の新交通システムとの連携を検討 する	松本中心市街地への通勤、通学便が充実しているの で、利用をもっと増やすための取り組みを、地域内にお いてさらに進めていく必要がある

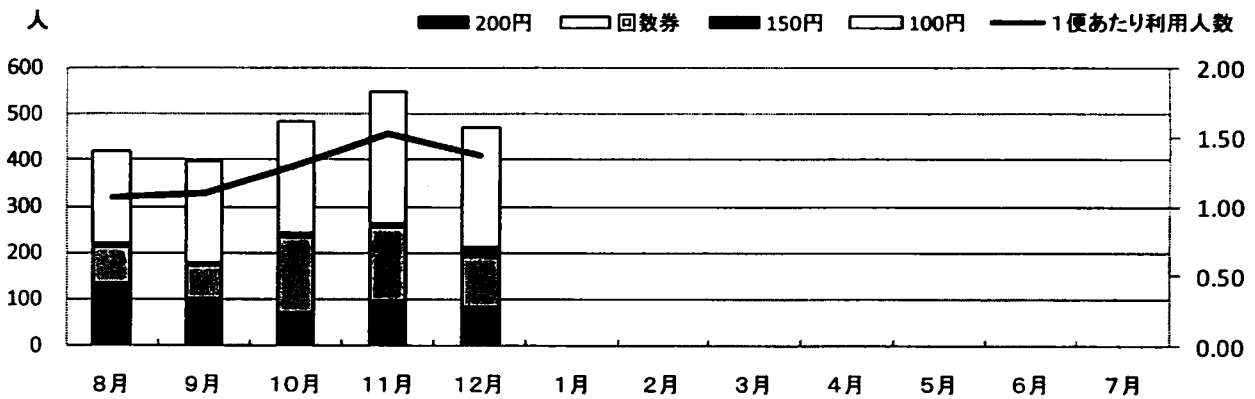
島内・新村線A線 月別利用者数



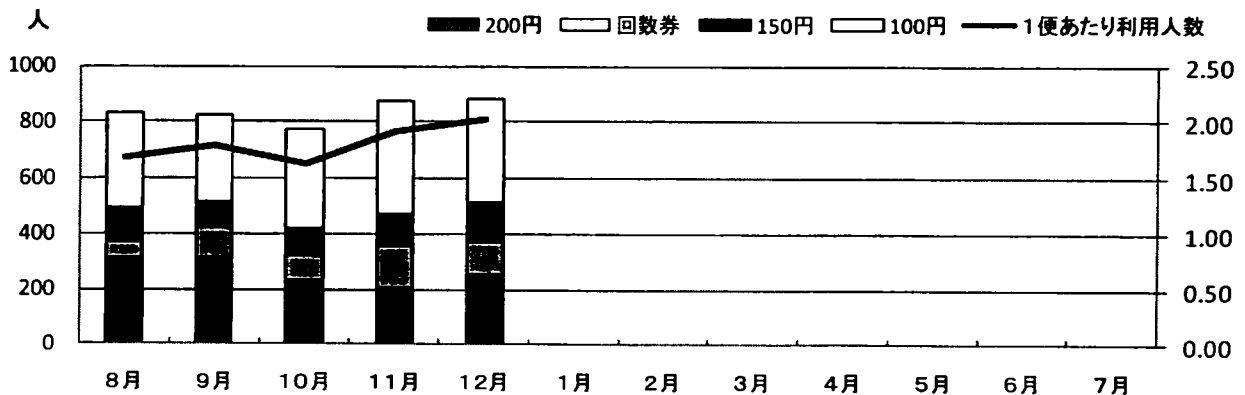
新村・平田線B線 月別利用者数



梓川線C線 月別利用者数(スクールを除く)

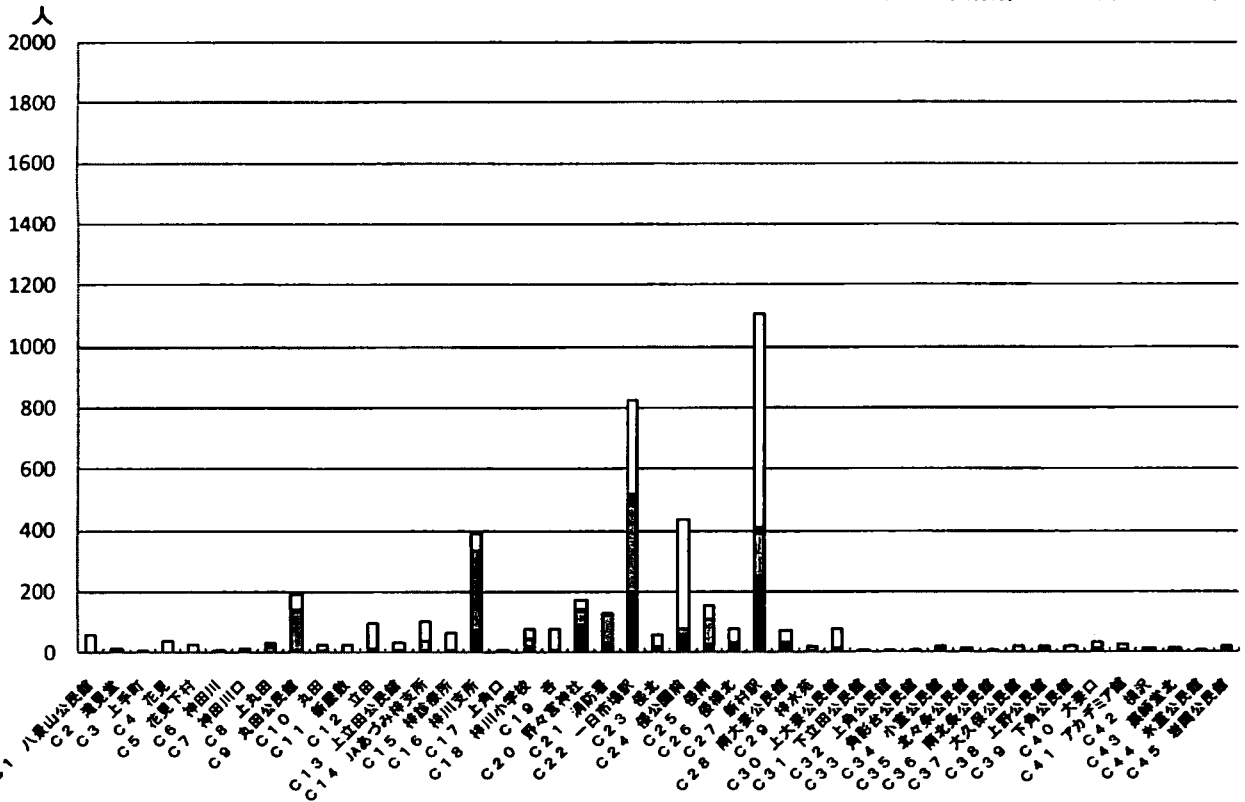


新村・村井線D線 月別利用者数



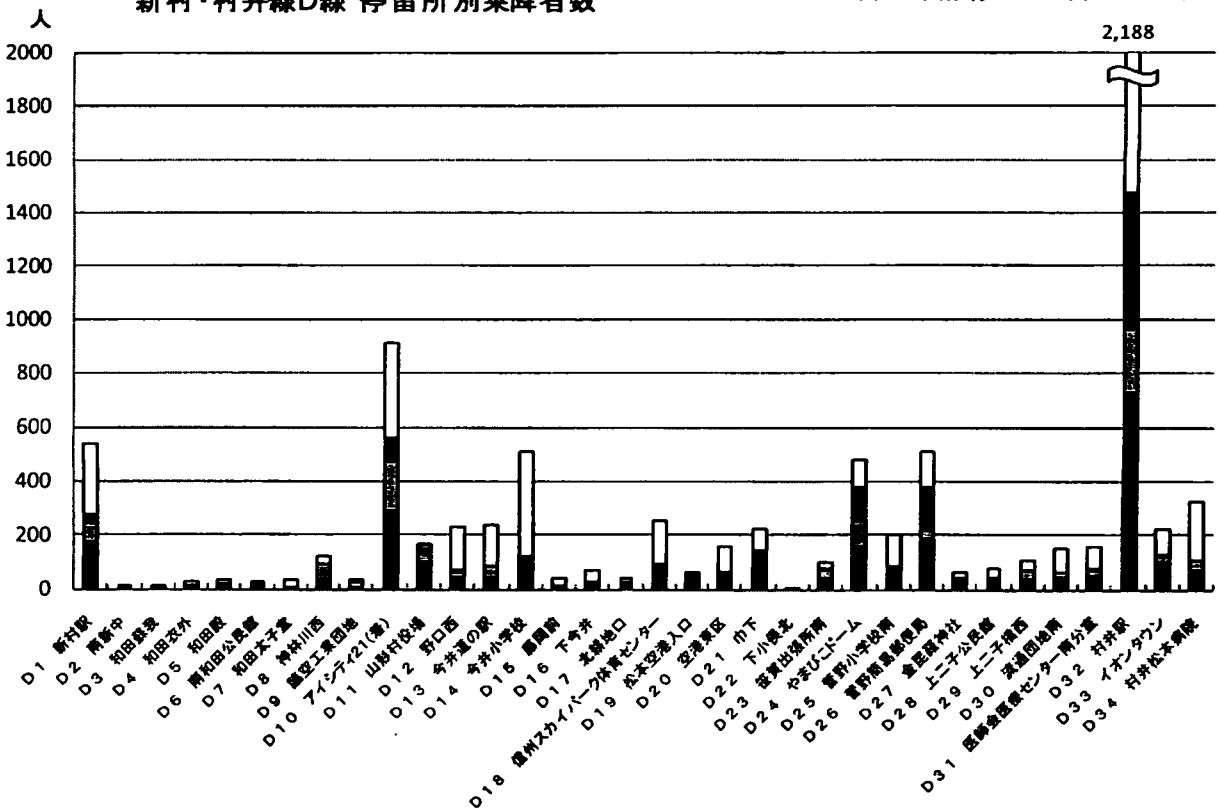
梓川線C線 停留所別乗降者数(スクールを除く)

■ 200円 □回数券 ■ 150円 □ 100円

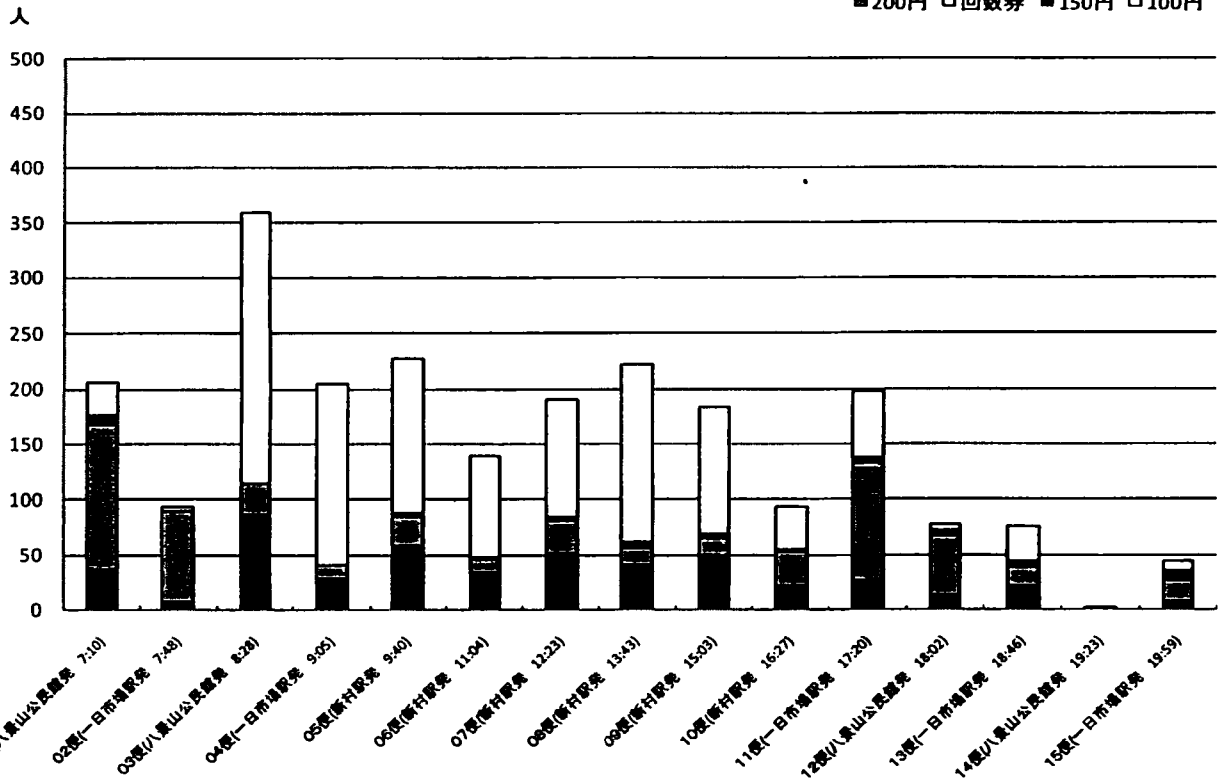


新村・村井線D線 停留所別乗降者数

■ 200円、□回数券 ■ 150円 □ 100円



梓川線C線 便別利用者数(スクールを除く)



新村・村井線D線 便別利用者数

